

もう一つのカタチ 「最小の コミュニティに見る協働」

**4世代9人の大家族
予定はカレンダー管理**

佐々木家は、4世代9人の大家族。少子化、核家族化が進む現代では珍しい。佐々木家で職に就いているのは、良二さん、文子さん、良宣さんと美恵子さんの4人。美恵子さんは、市内の事業所に勤務、文子さんと良宣さんは、良二さんが代表を務める自動車整備工場で、それぞれ経理事務、整備の仕事をしている。美空さんは中2、謙太郎君は小5、航太郎君は小1で、地元のみ山、米岡小に通う。

一家全員が茶の間にそろふことは、週に何回もない。良二さんと良宣さんの仕事は客商売なので、帰宅時間は決まっていない。また、良宣さんがPTAの役員や消防団員などを務めているため、不在なことが多い。美空さんは、ピアノと習字の習い事、謙太郎君はミニバスケットのスポーツ少年団に加入しており、週に何日かは夜に練習な

佐々木良二さん一家
＝米山町後小路＝



良二さんが代表を務める、自動車整備工場の日常。新車の納車を控え、最終点検をする良二さん（左から2番目）と良宣さん（右）。謙太郎君（右から2番目）は手伝いを、航太郎君（左）はおじいちゃんに車の仕組みを聞いていた。

どがある。そのため、佐々木家ではキッチンのカレンダーに、それぞれの予定を書き込んでスケジュールを管理。美恵子さんは「それぞれが忙しいので、書き込んでおけば余計な心配をしないで済むので」、文子さんは「家にいるときは、みんなで会話することを心掛けています。話せば、予定も考えも分かれますから」とにっこり。

**家事はそれぞれが担当
お互いさまが当たり前**

9人の大家族、家の中のことを誰か一人ではこなさきれないので、それぞれが担当を受け持っている。洗濯物を取り込み、畳むのは美空さんと謙太郎君。1回おきの担当制だ。子どもたち3人の送迎は、基本的に文子さん。以前は、パート勤務だった美恵子さんが担当していた。しかし、美恵子さんの勤務時間が変わったため、文子さんが担当に。夕食は、文子さんと美恵子さんが準備する。しかし、仕事の都合など

で遅くなる場合は、美空さんが代行。「お姉ちゃんのオムライスおいしんだよね」。2人の弟に褒められる美空さん。「本当はチャーハンが得意なんだけどな」と苦笑い。休日になると、良宣さんが台所に立つ。昔から料理が好きで、高校卒業までは料理人になることが夢だった。「自分が食べたいものを作るだけなんですけどね」と笑うが、家族からの評判はいい。「料理だけではなく、家の中のことは手の空いている人がやればいいですよ」と良宣さん。「まあ、お互いさまだからな」と、一家の長、良二さんがつぶやく。

**情報共有や役割分担など
何気ない日常にヒント**

それぞれの夢や目標は、良二さんが「あと10年、現場で仕事をする」、文子さんが「孫たちの成長を、健康体で見守ること」、良宣さん、美恵子さんが「子どもたちが何事もなく成長すること」、美空さんが「音楽関係の仕事に就く

こと」、謙太郎君が「パパの仕事を継ぐこと」、航太郎君が「プロサッカー選手」。

夢や目標は違えど、家庭は家族全体が「幸せな生涯を送る」ことを目指して努力している。日々の暮らしの中で、みんなが幸せに生活するために、情報共有したり、家事を役割分担したりしている。家族のための行動は「お互いさまの精神」。見返りを求めてはいない。

家庭がうまくいかなくなるのは、事故や病気など、特殊なものを除いて、問題があるからではない。問題になりそうなことを事前に相談するなど、解決に向けての対応がないからだ。

何事もうまくいっていると、きは感じない。しかし、問題が起きたときに、後から気付くことが多い。

「最近、会話が少なくなっていた」「負担をかけ過ぎていた」。――

多くの人たちの何気ない日常に、より良い協働につながるヒントが隠れている。

PROFILE

写真後左から、良二さん(64)、文子さん(63)、慶子さん(83)、智章さん(86)、美恵子さん(42)、良宣さん(40)、写真前左から航太郎君(7)、謙太郎君(9)、美空さん(14)。



洗濯物を畳む美空さん。今回は、謙太郎君が担当だったので、この日は美空さんの出番。母、美恵子さんも「本当に助かっています」とほほ笑む。

「家の中のことはお互いさま」

